

ポスター発表 17

日比の懸け橋を目指して—フィリピンを知る、伝える、行動する—

中山美紀子 (京都市立春日丘中学校)

<実践の場の特徴>

生徒438名の京都市郊外の中学校。日本語教室通級者6名。いずれもJFCで校区内の介護施設のフィリピン人職員または元職員の子弟。来日時期、日本語力・母語力は様々。

<目標>

1. 両国につながる自分を肯定的に捉え、自信と誇りをもつ。
2. フィリピンの現状を知り、自分にできることを考え行動する。
3. 大勢の人への一斉スピーチで、内容が伝わる話し方ができる。

<内容>平成26年度より生徒会と協働でフィリピン台風復興支援のためのHabitat募金を行う。

<過程>学校祭の日本語教室作文展示を機に、生徒会よりフィリピンへの募金活動の提案があり始動。まず、巨大台風後復興が進まない現状と人々の思いを知るため、家族が被災した方や現地で支援活動をされた方の話を聞き、課題と支援を考える勉強会を実施。それを受け、全校生徒に現状を知らせ支援や募金を訴えるスピーチ、そして校内・地域・市中心部での募金活動を行った。スピーチは、範読を聞き原稿に切れ目や抑揚を入れ、教師と何度も発音や話し方の練習を行った。

<結果と考察>

家族を通してのみ知る母国が、勉強会で国全体が見えてきた。当初、日比間における自身の不安定さや無力さを感じていた生徒が、スピーチへの反響、盛況な校内募金、街頭での励ましや募金協力に、次第に自信と自己有用感を持つようになった。話し方も説得力を持ち、人前で話す自信に繋がった。2年連続の活動により、思いや考えを深めることができた。今後更に日比両国に関心を持ち、生徒自らが情報を獲得し、考え、行動できるよう指導していきたい。